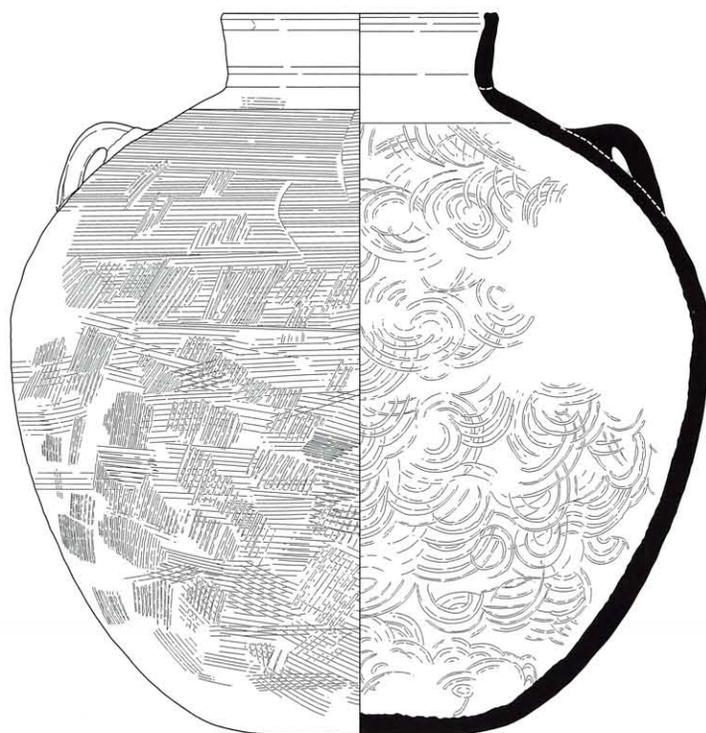


藤井寺市発掘調査概報 第8号

土師の里遺跡 (HJ2010-7区)



2012年9月

藤井寺市教育委員会

土師の里遺跡 (HJ2010 - 7 区)

位置と環境

調査区は、道明寺天満宮の北側約 300 m に位置する。地形分類上は中位段丘の東の緑辺部にあたるため、現状における敷地東側の地形は約 2.5 m の比高を持ってやや急な斜面で下降している。

今回の調査は、段丘緑辺部における土地利用形態を明らかにすることを主な目的として実施した。

調査の経過

宅地造成に伴う文化財保護法第 93 条第 1 項の届出が提出されたため、申請者の依頼を受けて、まず道路建設部分にトレンチを設定した (A トレンチ)。また、造成に際して段丘斜面に擁壁を設ける計画であったため、その部分にトレンチを設定した (B ~ G トレンチ)。

調査面積は、A トレンチ 140㎡、B トレンチ 35㎡、C トレンチ 4㎡、D トレンチ 12㎡、E トレンチ 4㎡、F トレンチ 4㎡、G トレンチ 7㎡で、総面積は 206㎡である。

A トレンチでは、耕土 (第 1 層) の下に、暗灰黄色細砂 (第 2 層) がある。トレンチ西側では、その下に地山である黄灰色細砂が認められる。しかし、東側 3 分の 2 程度には第 2 層と地山との間に各層の堆積が認められる。現況レベルはトレンチ西側では T.P.27.5 m、東側では T.P.27.1 m と、東側に向かって緩やかに下降する。また、地山レベルはトレンチ西端では T.P.27.0 m、東端では T.P.26.2 m と、0.8 m の比高でもって東側に下降する。地山上で、掘立柱建物、溝、土壌、掘り込みを検出した。これらは古代の所産である。

B トレンチでは、耕土 (第 1 層) の下に、暗黄灰色細砂 (第 2 層) 認められ、それを除去すると地山である黄灰色細砂があらわれる。現況レベルは T.P.26.9 m、地山レベルは T.P.26.6 m を測る。地山上で、井戸とピットを検出した。これらは古代の所産であるが、ピットについてはほとんどが深さ 0.1 m に満たないものであった。

C トレンチでは、耕土 (第 1 層) の下に暗黄灰色細砂 (第 2 層) が堆積しており、それを除去する

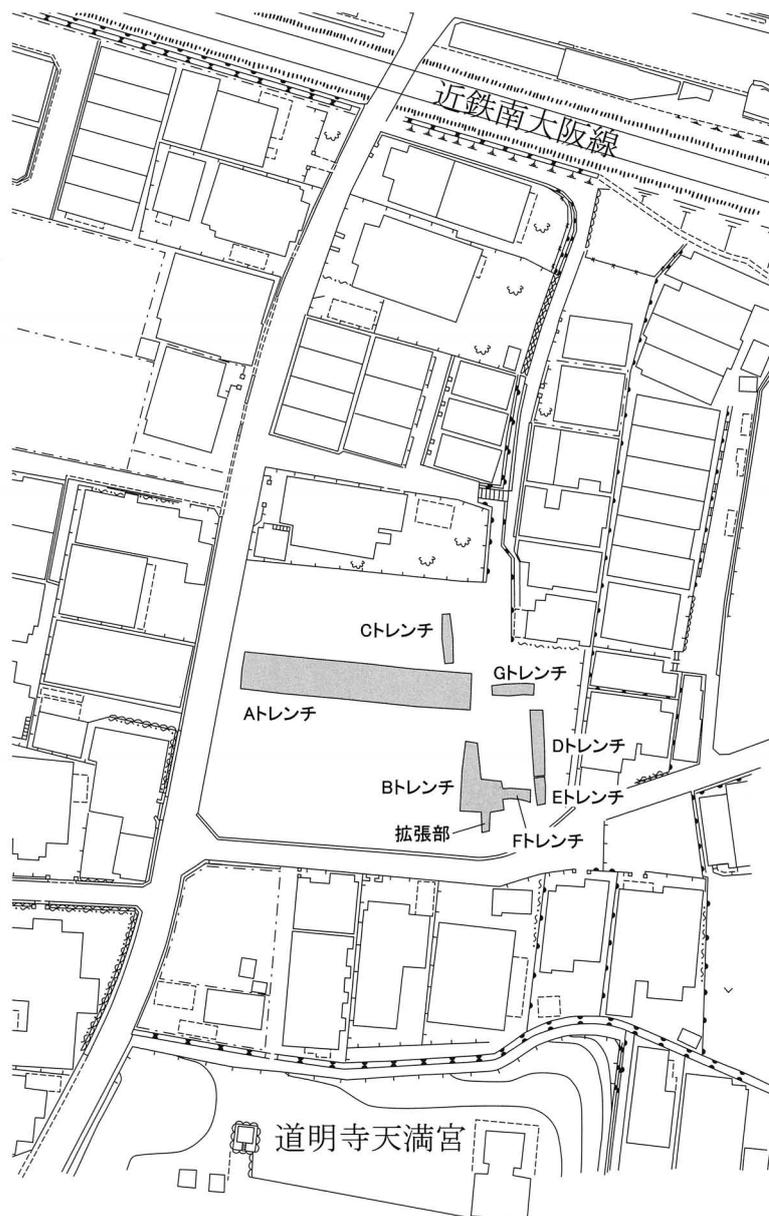


図 1 トレンチ断面図 (S = 1 : 1000)

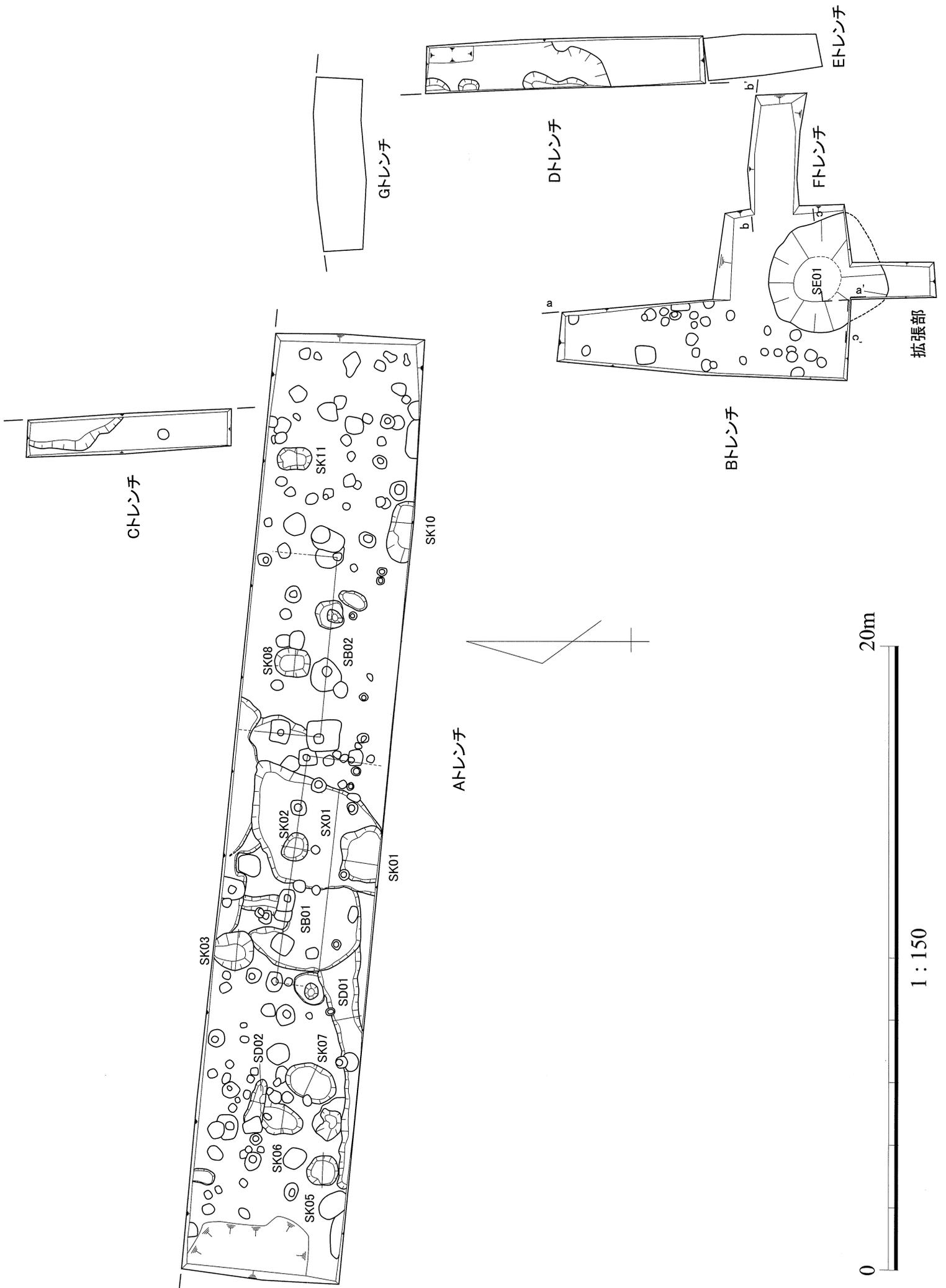


図2 遺構平面図

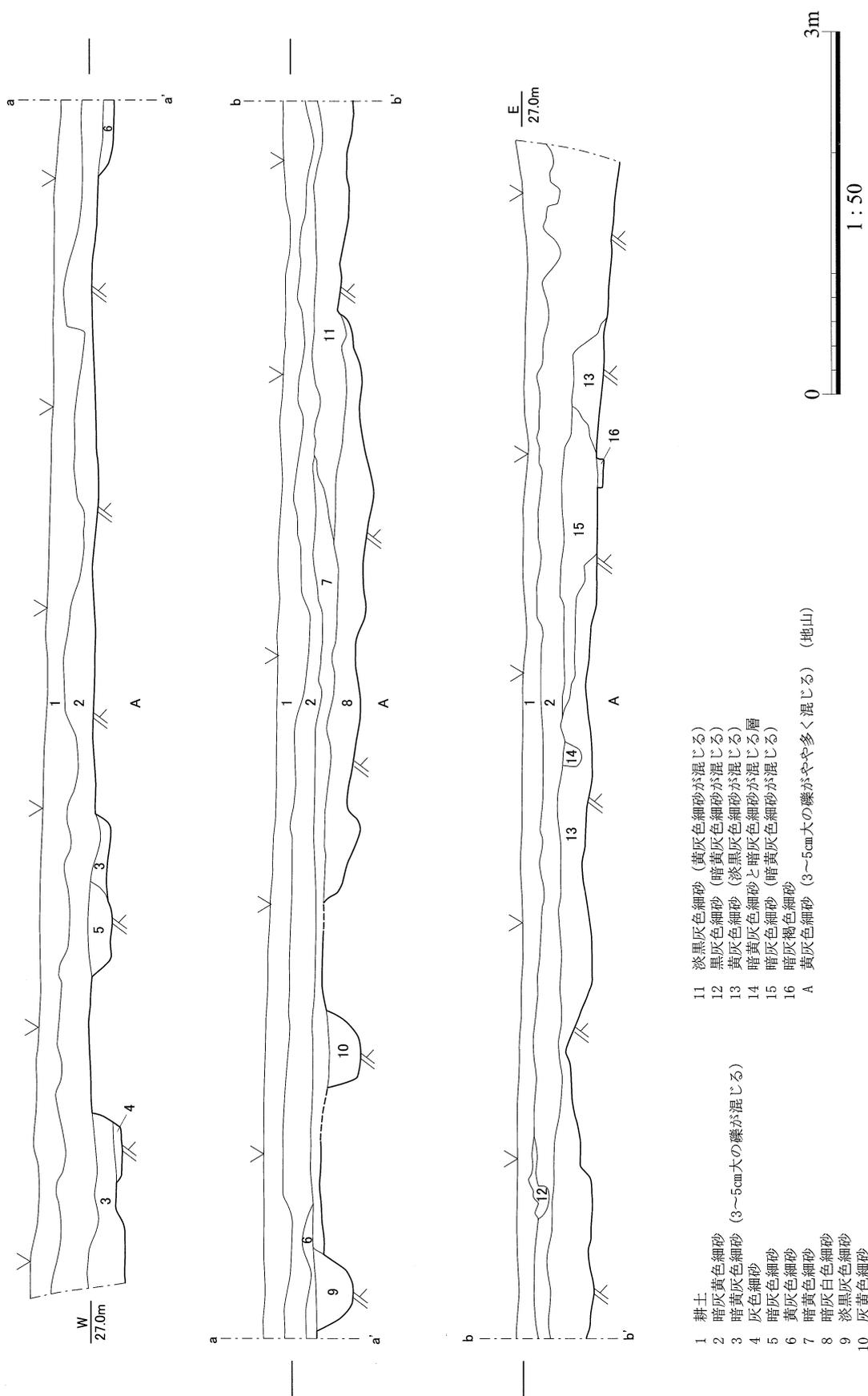


図3 Aトレンチ断面図

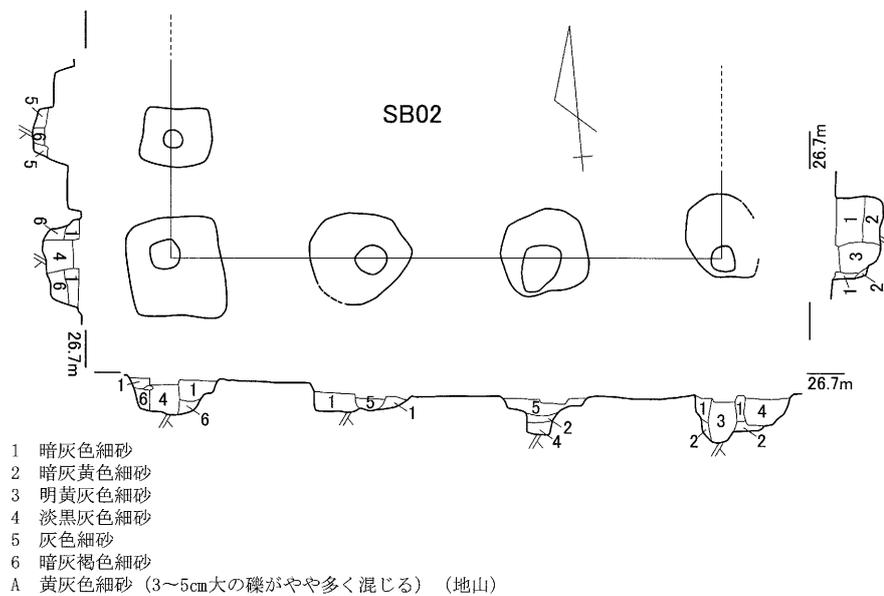
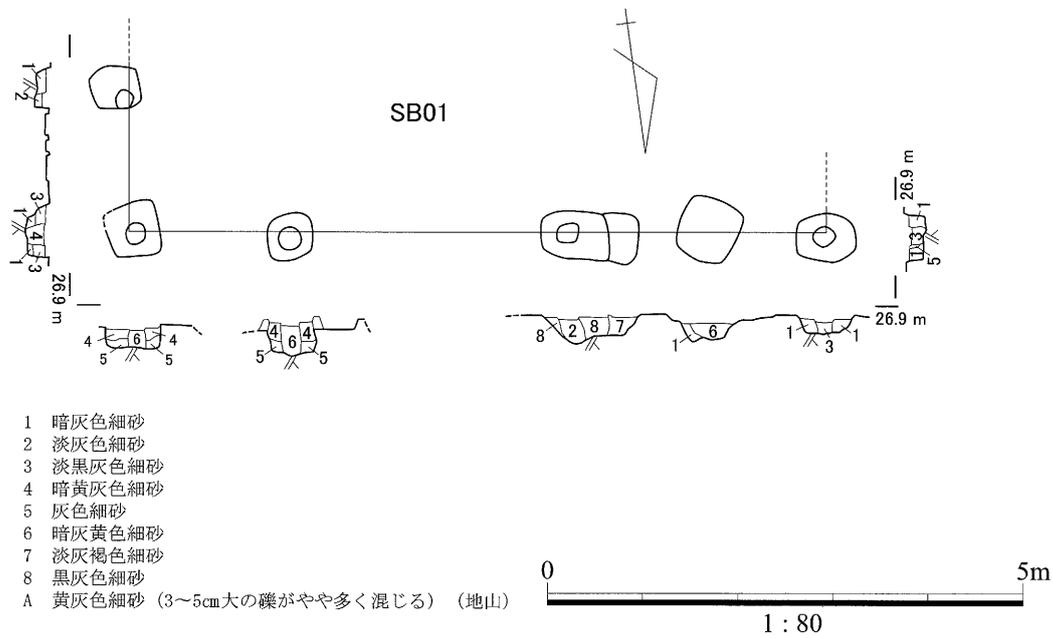


図4 AトレンチSB01・02平面・断面図

と暗灰黄色細砂（第3層）、黄灰色粗砂（第4層）が認められる。それらの下に地山である黄灰色細砂があらわれる。現況レベルはT.P.27.0m、地山レベルはT.P.26.4mを測る。地山上で掘り込みを検出した。これは古代の所産である。全形は窺えないが、深さ0.5mを測り、埋土は暗灰色細砂である。

Dトレンチでは、耕土（第1層）の下に地山である黄灰色細砂が認められる。なお、北側に向かって落ち込みが認められる。現況レベルはT.P.24.8m程度、地山レベルはT.P.24.4mを測る。

FトレンチとGトレンチは段丘斜面に設定したトレンチである。Fトレンチは耕土（第1層）の下に地山である黄灰色細砂が認められるが、東側の斜面裾部では地山上に暗灰黄色細砂（第2層）の堆積している部分がある。現況レベルはトレンチ西側ではT.P.26.6m、東側ではT.P.24.9m、地山レベルはトレンチ西端ではT.P.26.2m、東端ではT.P.24.5mを測る。Gトレンチは耕土（第1層）の下に茶灰色細砂（第2層）が堆積しており、それを除去すると地山である黄灰色細砂が認められる。現況

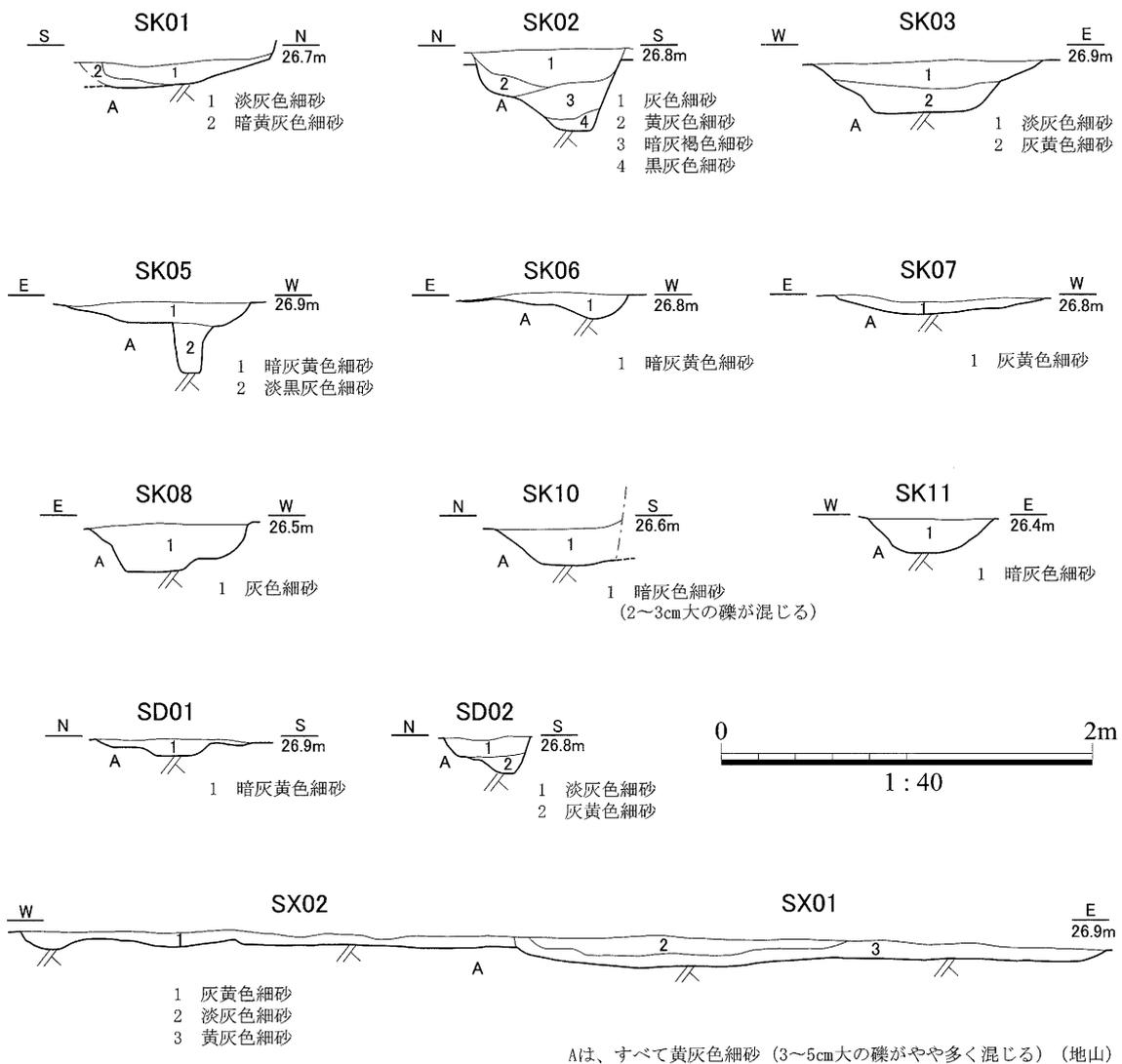


図4 Aトレンチ各遺構断面図

レベルはトレンチ西側では T.P.26.8 m、東側では T.P.24.3 m、地山レベルはトレンチ西端では T.P.26.2 m、東端では T.P.24.2 mを測る。

調査の成果

SB01 Aトレンチで検出した2間以上×4間以上の建物。主軸方向はN-85°-Wである。柱間は不規則であるが、削平により消滅した柱穴もあると思われる。全長は梁行1.7m以上、桁行7.3mである。柱掘方の平面形態は隅丸方形を呈することを基本とするようで、一辺0.5~0.7m程度である。

SB02 Aトレンチで検出した2間以上×3間の建物。主軸方向はN-80°-Wである。柱間は梁行1.3m、桁行1.8~2.1m程度、全長は桁行5.8mである。柱掘方の平面形態はいびつな円形を呈するものと隅丸方形を呈するものとが認められる。直径又は一辺の長さは0.7~1.1m程度である。

SE01 Bトレンチの墳丘斜面のすぐそばで検出した井戸。平面形態はいびつな円形を呈し、直径は3.6m程度を測る。断面形態は上端からやや緩やかに落ち込みことを基本とするが、西側は垂直に近い形で落ち込み、検出面から1.1m程度の深さで幅0.5m程度の平坦面を形成している。これは、井戸をさらに掘り下げる際の作業スペースとして使用されたと思われる。なお、たち割りを行ったとこ

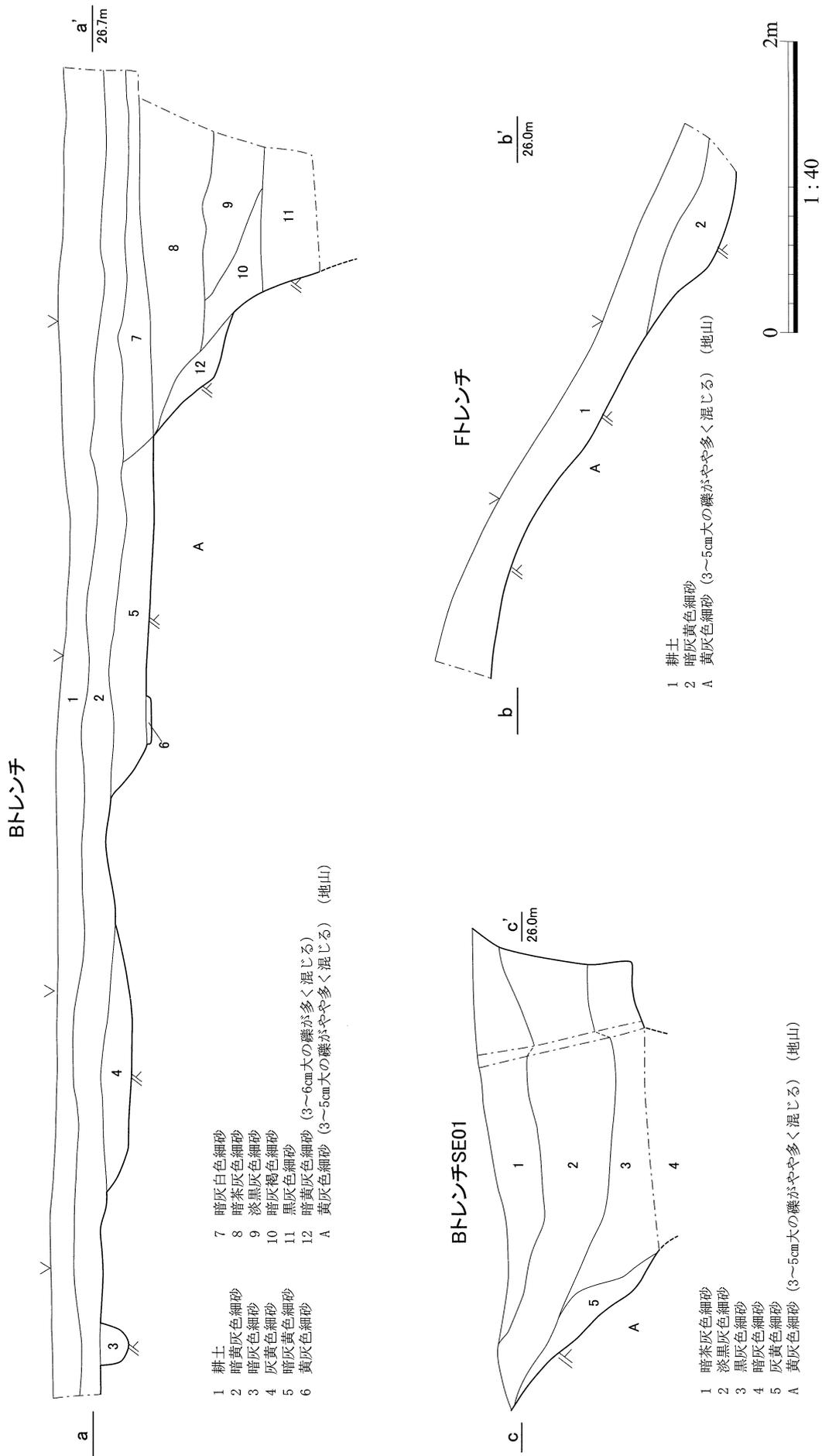


図6 Bトレンチ・SE01・Fトレンチ断面図

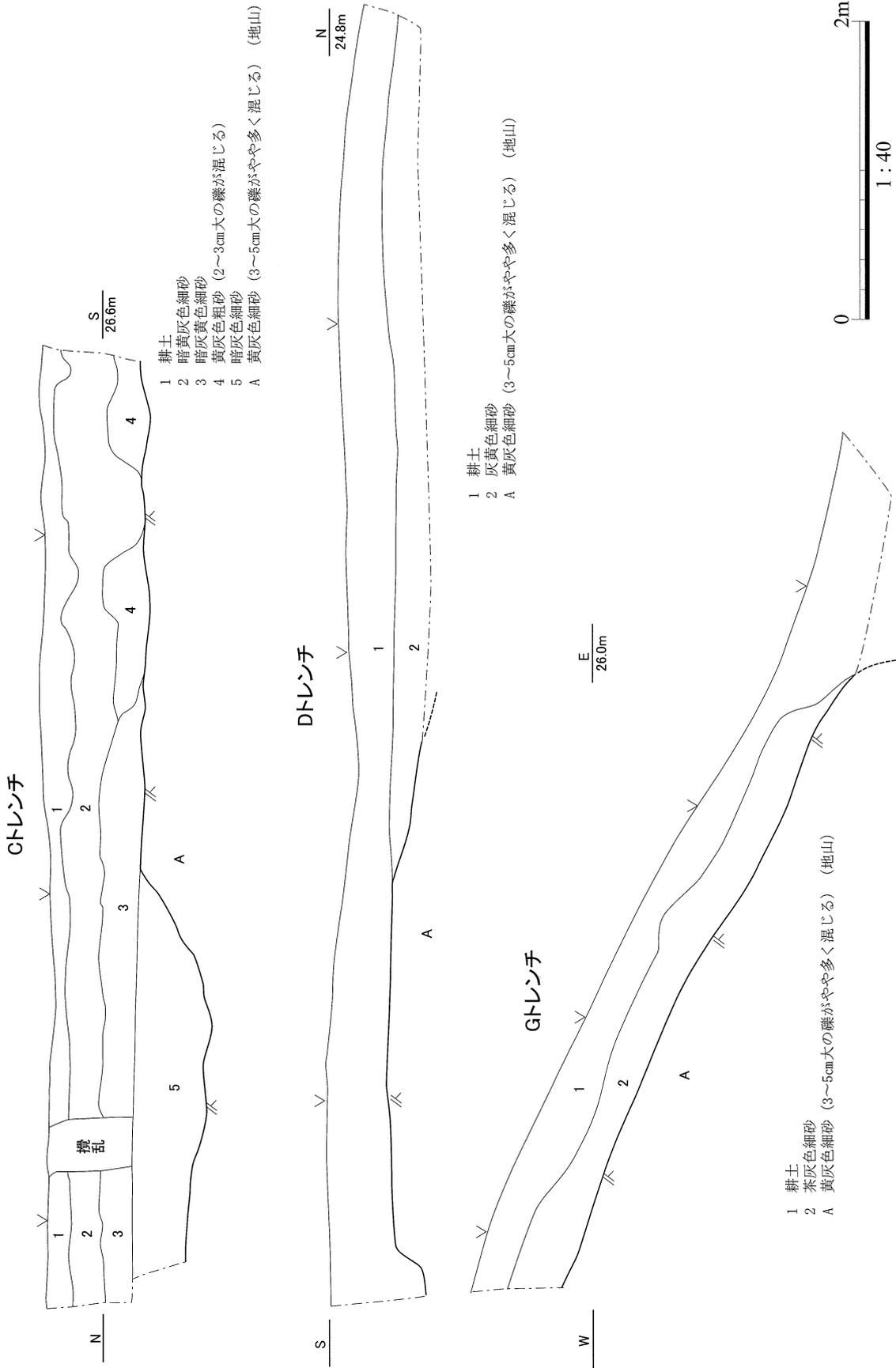


図7 C・D・Gトレンチ断面図

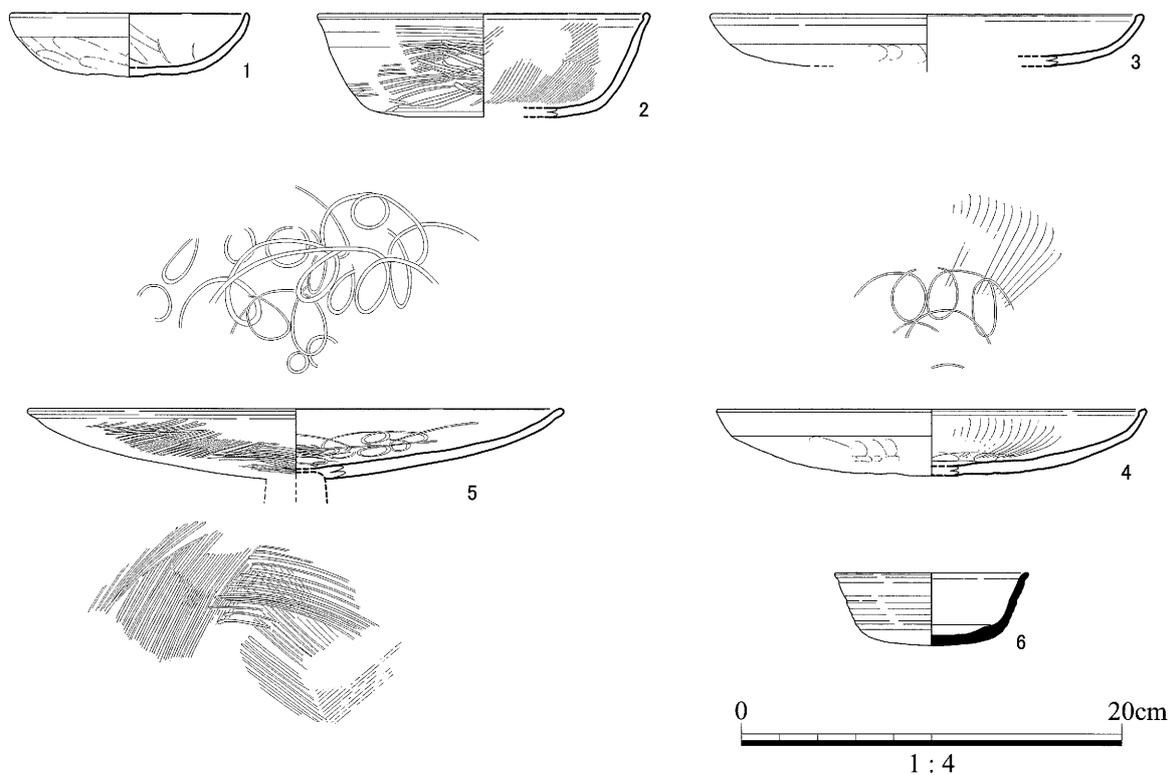


図8 Aトレンチ SK01・SX01 出土遺物実測図 (1～5:SK01、6: SX01)

ろ、検出面から約2mの深さで地山と思われる土層が認められた。出土遺物の内、土師器杯、羽釜、鉢、須恵器杯、甕、平瓶、黒色土器A類杯を図化した。他に瓦も出土している。これらは9世紀後半の所産である。この井戸の埋没の上限も同時期に求められる。

SK01 Aトレンチで検出した土層。SX01に切られる。平面形態はいびつな楕円形を呈し、長径は0.7m程度を測る。断面形態は浅い皿状を呈し、検出面からの深さは0.2m程度である。出土遺物の内、土師器杯、皿、高杯を図化した。これらは8世紀代の所産である。この土層の埋没の上限も同時期に求められる。

SX01 Aトレンチで検出した掘り込み。SK01を切る。平面形態は不定形で、最大幅は1.8m以上である。断面形態は浅い皿状を呈し、検出面からの深さは0.2m程度である。出土遺物の内、須恵器杯を図化した。他に土師器、瓦も出土している。これらは8世紀代の所産である。この掘り込みの埋没の上限も同時期に求められる。

小結

今回の調査で、中位段丘縁辺部における掘立柱建物の展開を確認できた。これらの建物は、同時に検出した遺構の時期から、8～9世紀代に建てられた可能性が考えられる。なお、墳丘斜面にもトレンチを設けたが、遺構等は認められなかった。その性格については、一般集落であるとも考えられる。しかし、SE01やSX01から瓦が出土していることから、瓦葺きの建物であった可能性も考えられる。そうだとすると、北側に存在したとされる河内国府と関連づけて考察する必要もあるように思われる。いずれにしても、今後検討すべき課題である。

なお、段丘斜面にもトレンチを設けたが、遺構等は認められなかった。

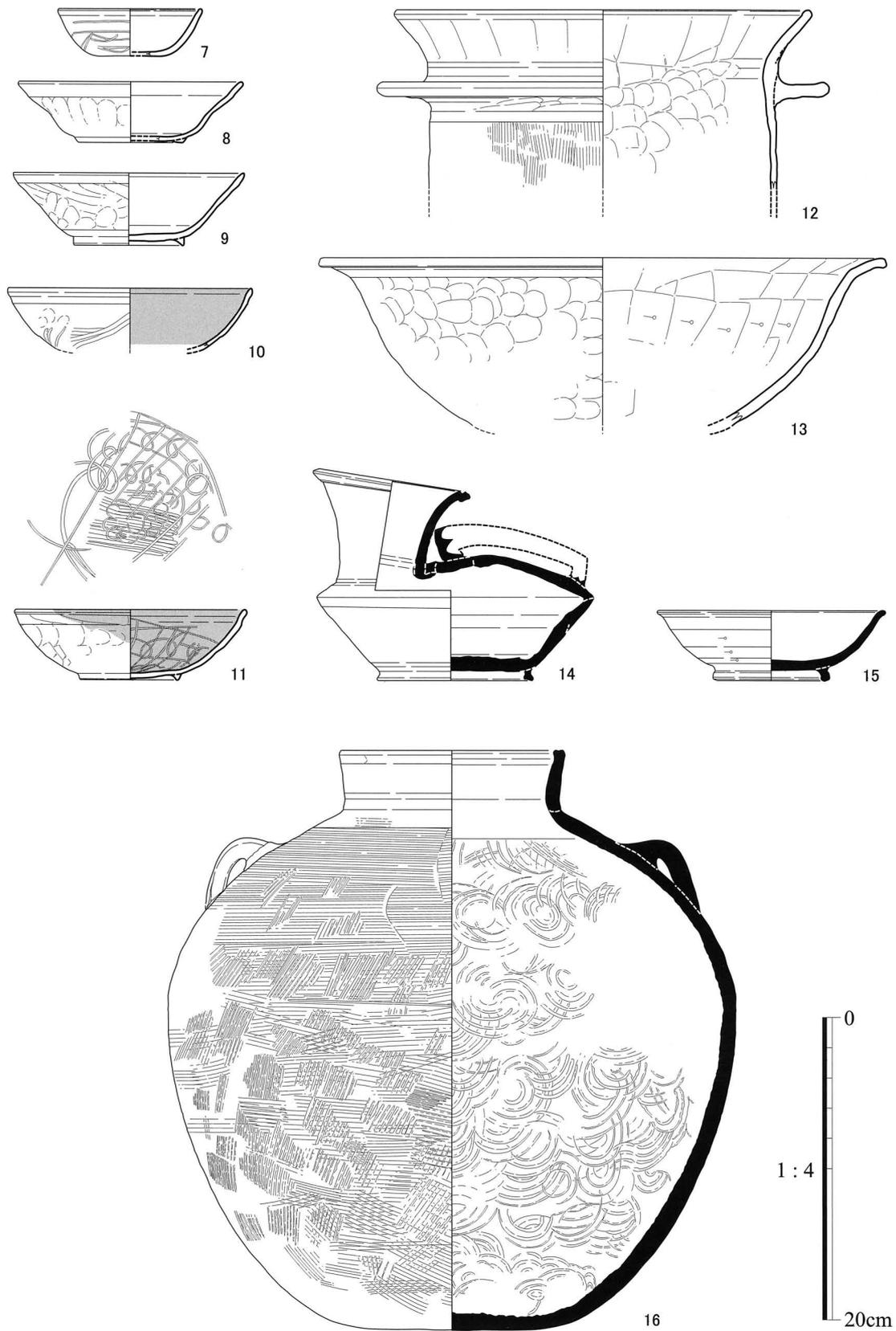


図9 Bトレンチ SE01 出土遺物実測図



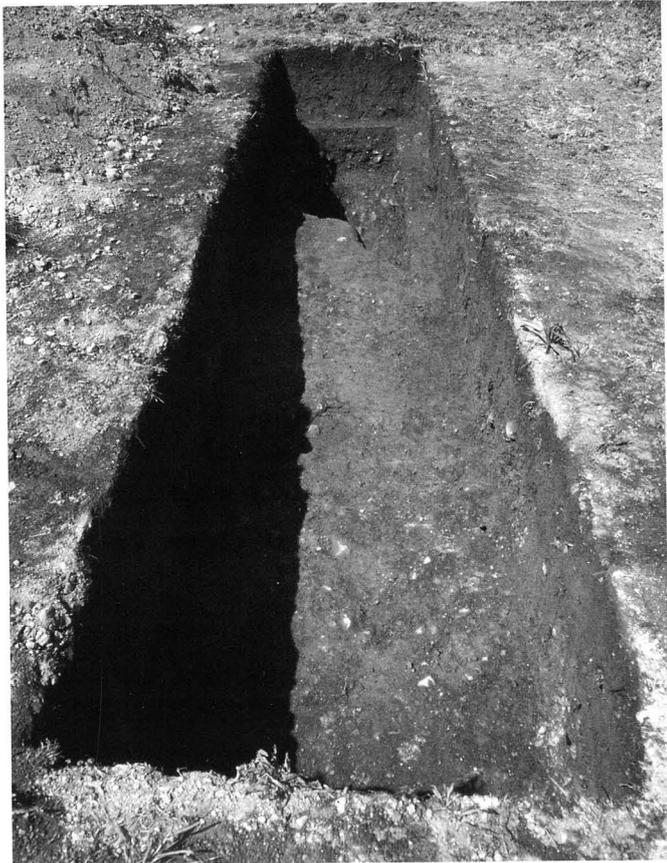
A トレンチ (西より)



B トレンチ (北より)



B トレンチ拡張部 (北より)



C トレンチ (南より)

Bトレンチ
SE01 (北西より)



Dトレンチ (北より)

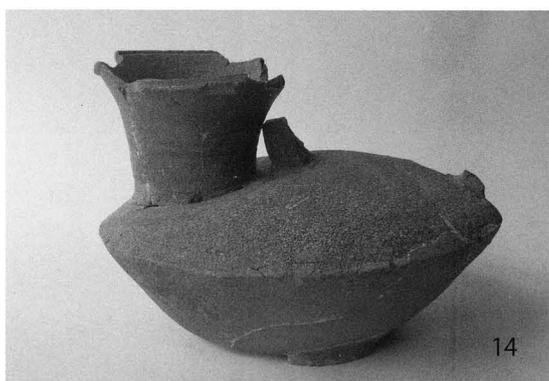
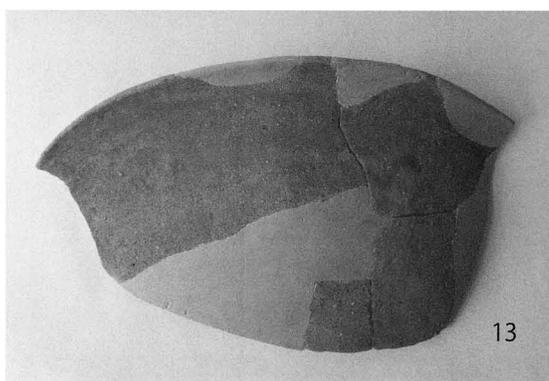
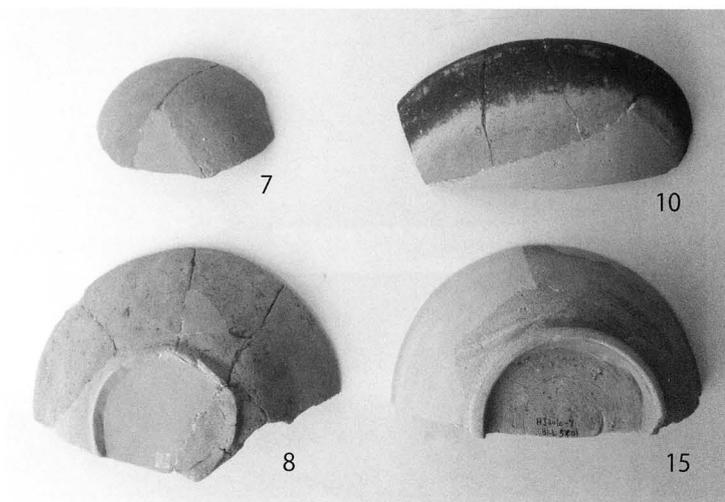
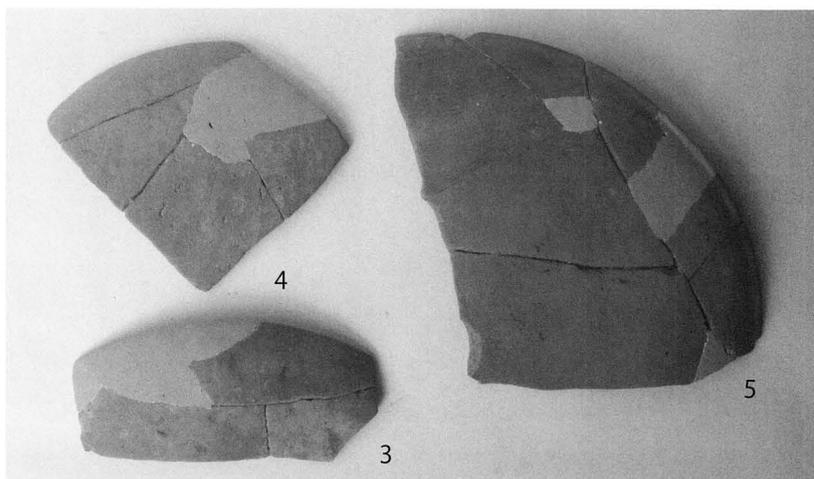
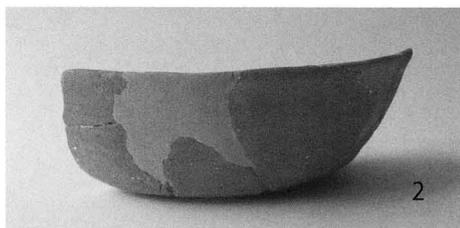
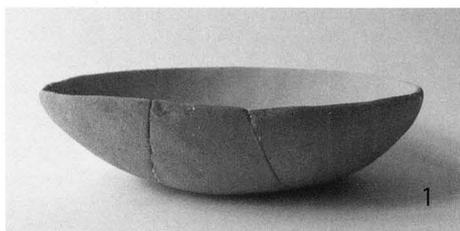


Fトレンチ (南西より)



Gトレンチ (南西より)





例 言

- 1 本書は、分譲住宅建設に伴い2010年度に実施した、土師の里遺跡（HJ2010－7区）発掘調査の概要報告書である。調査地は、藤井寺市国府3丁目42－1に所在する。
- 2 調査は、申請者の依頼を受け、藤井寺市教育委員会事務局教育部文化財保護課が実施した。期間は、現地調査（外業）2011年3月8日～年4月11日、整理作業（内業）2011年7月25日～2012年5月10日である。
- 3 調査及び本書の作成は、新開義夫、今莊ひとみ、木本泰、寺崎理恵、深尾まき子が行なった。
- 4 写真の撮影は新開と深尾が行なった。
- 5 図面の方位は、特に断りのない限り座標北を使用した。標高はT.P.を用いた。トレンチ位置図は、上を座標北とした。

報告書抄録

ふりがな	はじのさといせき
書名	土師の里遺跡
副書名	HJ2010－7区
シリーズ名	藤井寺市発掘調査概報
シリーズ番号	第8号
編著者名	新開義夫
編集機関	藤井寺市教育委員会
所在地	〒583-8583 大阪府藤井寺市岡1丁目1番1号 TEL 072-939-1111 (代)
発行年月日	西暦2012年9月7日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はじのさといせき 土師の里遺跡	おおさか府 大阪府 ふじいでらし 藤井寺市 こう 国府	27226	20	34° 34' 14"	135° 37' 4"	現地調査（外業） 2011年3月8日 ～4月11日 整理作業（内業） 2011年7月25 日～2012年5月 10日	206	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
土師の里遺跡	集落跡	古代	掘立柱建物、井戸、溝、 土壌	土師器、須恵器、 黒色土器、瓦	

藤井寺市発掘調査概報 第8号

土師の里遺跡（HJ2010－7区）

発行日 2012年9月7日

編集・発行 藤井寺市教育委員会事務局
藤井寺市岡1丁目1番1号
TEL (072) 939-1111 (代)

印刷 株式会社近畿印刷センター
柏原市本郷5丁目6番25号

